

Atlas バージョン 1.3

Salesforce 及び SharePoint の為のデータ管理ツール

このドキュメントはユーザー インターフェイスと DocAve Atlas for Salesforce の基本的な機能の習得を目的に作成されています。





データ保護

レプリケーション

コンテンツ インテグレーション

システム要件とインストール

AvePoint Atlas for Salesforce のインストール ウィザードでは、インストール手順の概要を説明します。以下の手順に従って、Atlas をインストールします。

Atlas をご使用になる為のシステム要件及び必要なユーザー権限は以下です。

システム ハードウェア及びオペレーション システム要件:

- .NET Framework v2 以上
- Windows Server 2003/2008、XP、Vista、その他
- 1GHz プロセッサ（最小）と 1.5 GB 以上の RAM
- バックアップ専用の空き容量をローカル上に 1GB
- インターネット アクセス

SharePoint 要件:

バックアップ&リカバリー及びコンテンツ インテグレーターの機能を使用する為の要件:

- SharePoint Web フロントエンド サーバー上への Atlas のインストール
- インストール及び構成に使用するユーザーへのドメイン ユーザー権限付与
- インストール及び構成に使用するユーザーへのローカル管理者権限付与
- インストール及び構成に使用するユーザーへの、SQL サーバー内の 全 SharePoint データベースのオーナー権限付与
- インストール及び構成に使用するユーザーへのファーム管理者権限付与

Salesforce 要件

- Salesforce セキュリティ トークン
- 使用する Salesforce アカウントへの読み込み、追加、編集権限付与
- コンテンツ インテグレーター使用時には、エンタープライズ レベル以上のアカウント

インストール手順

本ソフトウェアをインストールするシステムで以下を実行してください。

1. **ダウンロード:** Atlas.ZIP ファイルをダウンロードするには、<http://www.avepoint.co.jp/resources/free-trial-downloads/> にアクセスするか、このパッケージへのリンクについてAvePoint担当へお問い合わせください。
2. **解凍:** 上記パッケージをインストール先のマシン上で解凍します。
3. **実行:** 解凍したディレクトリの中の Setup.exe ファイルを実行します。
4. インストール画面の手順に従いインストールを構成します。インストール前に、名前、会社、インストール先フォルダを入力します。ツールをインストールする間にライセンスを適用するか、インストール後 Atlas コントロール パネルから直接ライセンスを適用できます。
5. 完了すると、すべての Atlas サービス インストール完了のメッセージが表示されます。

インストールが完了しました！

Atlas for Salesforce はお使いの SharePoint 及び Salesforce 環境へインストールされました。

コントロール パネル

コントロール パネルでは、Atlas を構成し、重要なオプションを設定することが出来ます。6 つのタブがあります。ユーザー設定、ストレージの場所、ジョブ プルーニング、ライセンス管理、システム設定、そしてコンテンツ インテグレーター設定です。詳細については以下で説明します。

ユーザー設定

ユーザー設定タブには、Atlas で使用している Salesforce 及び SharePoint アカウントの情報が含まれています。

Salesforce アカウントのページでは、Salesforce への認証に使用される Salesforce ユーザーの情報を確認することが出来ます。このページ上でユーザー名、パスワード、セキュリティ トークンを入力することで異なるアカウントへ変更することが出来ます。[保存] をクリックすると、新規ユーザーの情報を基に認証が行われます。

SharePoint アカウント ページでは、SharePoint へのログインに使用される SharePoint ユーザーの情報を確認することが出来ます。このページ上でユーザー名、パスワードを入力して [保存] をクリックすることで異なるアカウントへ変更することが出来ます。

コンテンツ インテグレーター モジュールに関する注意事項: 使用するユーザーには、ドメイン ユーザー、ローカル アドミニストレーター、SQL サーバー上に存在するすべての SharePoint データベース オーナー権限、そして SharePoint へアクセスする為のファーム アドミニストレーター権限が必要です。

ストレージの場所

Atlas でバックアップ ジョブを実行するには、以下の手順に従ってストレージの場所設定で、予めデータの保存先を指定しておく必要があります。

1. [参照] をクリックして、バックアップ データを保存するフォルダを選択します。[新しいフォルダの作成] ボタンを使用して、新規に保存先としてフォルダを作成することも出来ます。保存先を選択したら、[OK] をクリックします。
2. [保存] をクリックして保存先情報を保存するか、[クリア] をクリックして保存先情報をキャンセルします。

ジョブ プルーニング

ジョブ プルーニングでは、ジョブのライフサイクルまたはジョブの実行数に基に、選択したジョブ レコードに対してプルーニングルールを設定することが出来ます。頻繁にバックアップを実行する環境では、ジョブ プルーニング ポリシーを設定することを強

くお勧めします。設定することにより、古いデータによるシステムへの負荷や、管理者のデータベース メンテナンスを最小限に抑えることが出来ます。

ジョブ プルーニング ポリシーを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. まず、ラジオボタンを選択してジョブ プルーニング ルールを選択します。
 - **無効:** すべてのジョブ レコードが無制限に保存されます（またはデータベースの最大サイズに到達するまで）。
 - **ジョブ ライフ サイクル毎:** 自動プルーニングが実行されるまでの、保持対象となるジョブ レコード数を日、週、月単位で設定することが出来ます。
 - **ジョブ カウント毎:** 保持対象となるジョブ レコード数を設定することが出来ます。この値に到達すると、次の新規ジョブが実行されるタイミングで、最も古いジョブ レコードが削除されます（プルーニング スケジュールが設定されている場合を除く）。
2. プルーニング ルールの対象となるジョブ タイプを選択します。
3. プルーニング ルールのスケジュールを設定するには、[無効] チェックボックスをオフにします。[開始時刻] フィールドの横のカレンダー アイコンを使用して、プルーニング ジョブの実行日時を選択します。[1 つを選択] ドロップダウンから日間、週間、月指定、を選択してジョブ実行の間隔を設定することも出来ます。
4. ジョブ プルーニング レポートのエクスポート先を指定します。[参照] をクリックして、レポートを保存するフォルダを選択して [OK] をクリックします。[保存] をクリックして構成を保存します。

ライセンス管理

Atlas を使用するには、予めライセンス管理画面でライセンスを適用しておく必要があります。ライセンスの取得について AvePoint 担当へお問い合わせ頂くか、Salesforce の AppExchange から取得することが出来ます。

ライセンスを適用するには、以下の手順に従ってください。

1. [参照] ボタンをクリックして適用するライセンス ファイルを選択します。
2. [適用] ボタンをクリックすると、ライセンスの現在の詳細情報が表示されます。

システム設定

システム設定タブでは、Atlas で使用する言語と、実行するジョブのログ詳細レベルを選択することが出来ます。

言語設定

言語設定では、Atlas で使用する言語を設定することが出来ます。既定、英語、日本語の 3 つの言語が用意されています。既定のオプションを選択すると、お使いのブラウザの既定言語に合わせて言語が設定されます。

他の言語に変更する際の注意事項: 言語を変更するには、Atlas の再起動が必要です。

ログ設定

4つのオプションがあります。

- 1.) **エラー:** ジョブ全体の失敗と一部の失敗をすべてログします。
- 2.) **警告:** マイナー エラーと警告をログする為、完了したが、実行中にマイナーな問題が発生した作業の分析などに有効です。
- 3.) **情報:** 日付と時刻やイベント情報など、ログに対して発信された情報メッセージをログします。
- 4.) **デバッグ:** ログとして残せるすべての情報を収集します。このレベルは、トラブルシューティングに使用します。

コンテンツ インテグレーター設定

コンテンツ インテグレーターを使用してコンテンツを統合するには、ファイル マッピングに使用する為の既定のストレージを予め設定しておく必要があります。

ロード バランスを実行している Web フロントエンド サーバーが複数使用されているすべての SharePoint では、Web フロントエンド サーバーの一時的な情報を保存する場所を予め指定しておく必要があります。

1. パスフィールドに、次の形式でパスを入力します。¥¥<hostname>¥c\$¥....
2. ユーザー名フィールドには、Domain/Username の形式でユーザー名を入力し、このドライブへ接続する為のパスワードを入力します。
3. [テスト] をクリックして接続を確立し、[保存] をクリックして構成を保存します。

このセクションで保存先を設定しない場合の注意事項: コンテンツ インテグレーターは、次の既定の保存先を使用します。...¥AvePoint¥Atlas¥data¥Salesforce¥ContentReplicator¥RealTimeMessage すべての

Web アプリケーション プールのユーザーは、既定で Web フロント エンド サーバー上でこの保存先にアクセスすることが可能です。

コンテンツ インテグレーターのリアルタイム レプリケーションを実行するには、予め SharePoint ファーム上にソリューションをインストールしておく必要があります。既定では、コンテンツ インテグレーター ソリューションは、Atlas インストール時に同時にインストールされます。ソリューションのインストール及びアンインストールを実行するには次の手順に従ってください。

1. ソリューション インストール列の [インストール] をクリックします。
2. ソリューションを取り消すには、[取り消し] をクリックします。取り消しが完了すると、アンインストールまたは再度の展開を実施することが出来ます。

バックアップの実施

このセクションでは、基本的なバックアップ プランの設定方法と Atlas を使用して Salesforce データのバックアップを実施する際の手順を説明します。

1. まずはじめに、データ保護画面へ移動します。[バックアップ] ボタンをクリックすると、バックアップ ジョブが開始されます。
2. バックアップする Salesforce オブジェクトを選択します。既定では、すべてのオブジェクトが選択されています（[テーブル名] の隣のチェックボックスをオフにするとすべてのオブジェクトの選択を外すことができます）。各オブジェクトのレコード数を確認するには、[各オブジェクトのレコード数を表示する] チェックボックスをオンにします。読み込みが完了すると、レコード数がレコード数列に一覧表示されます。
3. [次へ] をクリックしてバックアップするオブジェクトを決定すると、次画面ではスケジュールとバックアップ タイプを選択します。
4. スケジュールを設定しない、またはすぐにバックアップを実行する場合には、[すぐに実行] をクリックします。[すぐに実行] をクリックすると、バックアップ 対象を指定する為のポップアップ ウィンドウが表示されます（次のバックアップ対象詳細を参照）。[すぐに実行] を再度クリックすると、完全バックアップを 1 回実行することができます。
5. バックアップをスケジュールする、またはデータ対象を選択するには、スケジュール設定を使用します。
 - **バックアップ対象:** チェックボックスがオフになっている場合、バックアップ タイプで指定されたデータをすべてバックアップします。バックアップ対象がオンになっている場合、構成されたオプションを基にして指定された時間帯に追加および編集されたデータのみがバックアップされます。
 - **過去 ... 時間、日間、ヶ月間:** 設定当日から、設定した時間までの間のデータをバックアップします。
 - **開始時刻 ... 終了時刻 ...:** カレンダー アイコンを使用して 2 つの時刻を指定し、その時刻間のデータをバックアップします。
6. 次に、バックアップ タイプを選択します。完全、増分、または差分のバックアップ タイプを指定することができます。
 - **完全:** 前の画面で選択した Salesforce レコードをすべてバックアップします。

- **増分:** バックアップ タイプに関係なく、前回のバックアップ ジョブ終了後に追加および更新されたレコードのみをバックアップします。
- **差分:** 前回の完全バックアップ終了後に追加または更新されたレコードをすべてバックアップします。

各バックアップ タイプの隣にあるカレンダー アイコンを使用して、バックアップ ジョブの各タイプのスケジュールを設定します。バックアップの実行にスケジュールを設定する必要はありませんが、設定するには以下の手順に従ってください。

- 1.) [無効] チェックボックスをオフにします。
- 2.) カレンダー アイコン (📅) を使用して、ジョブの開始時刻を設定します。
- 3.) ジョブを 1 回のみ実行、また間隔を設定するには [間隔] オプションを使用します。

ベストプラクティスとして、毎月の完全バックアップと毎週の増分バックアップを実行することを推奨します。

初めてバックアップを実行する際の注意事項: 完全バックアップのスケジュール設定を推奨します。

7. [完了] ボタンをクリックすると、構成が完了します。スケジュールの設定が完了したら、バックアップが自動的に実行されるまで待ちます。

バックアップの状態を表示する

ジョブを開始すると、ジョブ モニターでジョブの進行状況を参照することが出来ます。

1. まず、ジョブ モニターへ移動します。
2. [タイプ] ドロップダウン ボックスから、[データ保護/バックアップ] を選択すると、ジョブ情報がテーブルに一覧表示されます。このテーブルでは、ジョブの進行状況及びジョブの状態が確認出来ます。
3. 選択したレポートをダウンロードするには、画面右上の青い矢印をクリックします。

バックアップ設定の変更

バックアップ プランを既に設定済みの場合、次の手順に従って設定を更新（バックアップ対象及びスケジュール設定）することが出来ます。

1. データ保護画面で、[バックアップ] をクリックします。

2. バックアップ ジョブが過去に実行されている場合、バックアップ情報が [バックアップの状態] に表示されます。
[バックアップを実行] をクリックして今すぐバックアップ ジョブを実行し、構成を変更するには [バックアップの設定を変更] をクリックします。
3. 画面下部の [無効にする] と [有効にする] ボタンをクリックすると、スケジュールを無効及び有効にすることが出来ます。

バックアップ データのリストア

Atlas をご使用頂くことで、データのリストア及び復旧を迅速かつ簡単に実行することが出来ます。Atlas では、データのリストア先として元の Salesforce アカウント、または他の Salesforce アカウントを選択することが出来ます。

1. まず、データ保護画面へ移動します。[リストア] をクリックします。
2. 該当のラジオ ボタンをクリックしてリストア対象のバックアップ ジョブを選択し、[次へ] をクリックします。
3. リストアするコンテンツを選択します。各ジョブに含まれる内容の詳細が画面右側に一覧表示されます。
4. [関連するリスト レコードを含む] を選択すると、バックアップ対象に選択したデータに関連するリスト レコードをすべて同時にリストアすることが出来ます。これにより、レコードが他のデータに依存するオブジェクトを含んでいる場合でも、そのオブジェクトもレコードと同時にリストアされます。例えば、リストアした取引先に依存性のある取引先責任者が含まれている場合、取引先及び該当の取引先責任者が同時にリストアされます。このオプションを選択しない場合には、データ保護では取引先のみをリストアします。
5. [次へ] をクリックしてリストア設定を構成します。
 - リストア オプションを選択します。既定では、[上書きしない] が選択されています。このオプションでは、リストア先に存在しないオブジェクトのみをリストアします。リストア先に存在しているコンテンツに無関係に、コンテンツが上書きされます。同じ名前のコンテンツは上書きされます。
 - [すぐに実行] を選択してリストアを今すぐ実行するか、[実行する時刻を指定] を選択してカレンダー アイコンからリストア ジョブの開始時刻を指定します。[完了] を選択します。[完了] をクリックすると、選択したバックアップ データのリストアが実行されるか、またはスケジュールされた時刻に合わせてリストアが実行されます。

別の場所へリストアする

異なる Salesforce アカウントへバックアップ データをリストアするには、次の手順に従います。

1. まず、リストア先となるユーザー アカウントを使用して Atlas にログインします。
例: Admin@BueinessUnit1.com でログインしていた場合は、Admin@BusinessUnit2.com で再度ログイン
2. データ保護画面に移動し、[リストア] ボタンをクリックして [別の場所へ] のリストアを設定します。
3. リストア元のアカウントで実行したバックアップ ジョブを選択し、[次へ] をクリックします。

4. リストアするコンテンツを選択します。各ジョブに含まれる内容の詳細については画面右側に一覧表示されます。[関連するリストレコードを含む]を選択すると、バックアップ対象に選択したデータに関連するリストレコードをすべて同時にリストアすることができます。これにより、レコードが他のデータに依存するオブジェクトを含んでいる場合でも、そのオブジェクトもレコードと同時にリストアされます。例えば、リストアした取引先に依存性のある取引先責任者が含まれている場合、取引先及び該当の取引先責任者が同時にリストアされます。このオプションを選択しない場合には、データ保護では取引先のみをリストアします。

6. [次へ] をクリックしてリストア設定を構成します。
 - リストア オプションを選択します。既定では、[上書きしない] が選択されています。このオプションでは、リストア先に存在しないオブジェクトのみをリストアします。リストア先に存在しているコンテンツに無関係に、コンテンツが上書きされます。同じ名前のコンテンツは上書きされます。
 - [すぐに実行] を選択してリストアを今すぐ実行するか、[実行する時刻を指定] を選択してカレンダー アイコンからリストア ジョブの開始時刻を指定します。[完了] を選択します。[完了] をクリックすると、選択したバックアップ データのリストアが実行されるか、またはスケジュールされた時刻に合わせてリストアが実行されます。





SharePoint へのデータ レプリケーション

このセクションでは、Atlas レプリケーター for Salesforce を使用した Salesforce から SharePoint 環境へのデータ レプリケーションの手順を説明します。データをレプリケートするには、次の手順に従って予めデータ レプリケーション マッピング プランを作成しておく必要があります。

データ レプリケーション プラン

コンテンツの選択

レプリケーション プランは Salesforce と SharePoint のオブジェクト間の組み合わせを作り出すコンテンツ マッピングに依存します。

1. [マッピング テーブル:] の隣の [追加] ボタンをクリックします。ポップアップ ウィンドウが表示されます。
2. 画面左側の列の Salesforce の隣にある  アイコンをクリックして Salesforce オブジェクトを表示します。Salesforce から SharePoint へマッピングするオブジェクト及びレコードを選択します。
3. 画面右側の列上に表示されているフィールドに、SharePoint サイト URL を入力し、 アイコンをクリックして指定したサイト配下のコンテンツを読み込みます。SharePoint サイト URL を空白にすると、 アイコンをクリックした際にすべての SharePoint が読み込まれます。 アイコンをクリックしてツリーを展開し、コンテンツの保存先（サイトまたはリスト）を選択します。
4. [OK] をクリックしてマッピング構成を保存します。

マッピングの編集

マッピングの作成が完了すると、レプリケーション オプションの編集、削除、有効・無効の切り替えを実行する事が出来ます。

プランの実行

レプリケーション ジョブをスケジュールするには、次の [スケジュール オプション] セクションを参照してください。スケジュールを設定せずにレプリケーション ジョブをすぐに実行するには、対象のマッピングを選択して画面下部の [すぐに実行] ボタンをクリックします。[実行] をクリックして、このプランを実行します。

詳細設定

レプリケーション マッピングの詳細設定を構成するには、対象のマッピングを選択してから [詳細設定] ボタンをクリックします。詳細設定では、スケジュール、競合オプション、ユーザー マッピング、リスト マッピングを設定することができます。

スケジュール

各レプリケーション タイプにスケジュールを設定するには次の手順に従ってください。

1. すべてのコンテンツ（完全）、レプリケーション タイプを問わず前回のレプリケーション ジョブ以降に追加された変更のみ（増分）、または前回の完全レプリケーション以降に追加された変更すべて（差分）の中から、該当するタブをクリックしてスケジュールするレプリケーション タイプを選択します。
2. [無効] チェックボックスをオフにしてスケジュール オプションを有効にします。
3. カレンダー アイコンを使用して、レプリケーション マッピングの開始時刻を指定します。
4. [1 つを選択] ドロップダウンから時間、日間、週間、月指定、を選択してジョブ実行の間隔を設定することも出来ます。
5. [適用] をクリックして設定を保存します。

競合オプション

レプリケーションを設定するには、SharePoint と Salesforce 間での競合発生時の優先順位と詳細を設定します。

1. [優先度] ドロップダウン ボックスの数字を変更して競合解決ルールの優先順位を設定します。
2. 優先順位の設定が完了したら、該当のラジオボタンを選択して競合発生時のアクションを選択します。スキップ、上書き、手動競合解決の 3 つのオプションがあります。
 - スキップ:レプリケート元とレプリケート先で同じ名前のファイルが存在する場合には、そのファイルはレプリケートされません。
 - **上書き** : レプリケート元とレプリケート先で同じ名前のファイルが存在する場合には、そのファイルは先に設定した競合解決ルールに基づいて上書きされます。
 - 手動競合解決:"Salesforce" という名前のフォルダを作成し、競合が発生したファイルをこのフォルダにバックアップします。
※レプリケート元のファイルは最新のファイルで置き換えられます。Salesforce 上に手動でアップロードされているファイルのみが作成された新規フォルダへ保存されます。
3. [適用] をクリックして設定を保存します。

ユーザー マッピング

Atlas をご使用頂くと、Salesforce ユーザーから SharePoint ユーザーへのカスタム レプリケーション マッピングを手動で作成することが出来ます。ユーザー マッピングを構成しない場合、Salesforce ユーザーは SharePoint ユーザーへと自動的に照合されますが、照合の結果 SharePoint ユーザーに一致しなかった Salesforce ユーザーはシステム アカウトへとマッピングされます。ユーザー マッピングを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. 該当のテキストボックスに既定ドメインを入力します。これにより、マッピング プロファイルで構成されていないユーザーはこのドメインに追加されます。このテキストボックスが空欄のまま保存されると、現在のマシンのドメインが使用されます。
2. [ユーザー マッピング] チェックボックスをオンにしてユーザー マッピングを有効にします。次に、レプリケートする Salesforce ユーザー名とレプリケート先の SharePoint ユーザー名を入力します。[グループ マッピング] チェックボックスをオンにしてグループマッピングを有効にすると、Salesforce ユーザーから SharePoint グループへのマッピングを設定する事が出来ます。既定では、ユーザー マッピングとグループ マッピングオプションは有効になっています。
3. プラス アイコンとマイナス アイコンをクリックして、マッピングを追加及び削除することが出来ます。
4. [適用] をクリックしてマッピングを保存します。

マッピングの構成が完了したら、[マッピングの保存] ボタンをクリックしてマッピングを xml ファイルとして保存します。これにより、後に [既存マッピングの読み込み] からマッピングを読み込むことが可能になります。XML ファイルからの読み込みが最速のマッピング読み込み方法である為、大量のユーザーが存在する場合には、予め XML ファイルに保存しておくことを推奨します。

リストマッピング

Atlas をご使用頂くことで、Salesforce オブジェクトから SharePoint リストへ手動でマッピングを設定することが出来ます。手動でリスト マッピングを作成するには、次の手順に従ってください。

1. [リスト マッピング] チェックボックスをオンにしてリスト マッピングを有効にします。次に、レプリケートする Salesforce オブジェクト名とレプリケート先の SharePoint オブジェクト名を入力します。また、SharePoint リスト タイプ及び SharePoint リスト タイプ ID を必要に応じて指定することも出来ます。
2. 列マッピングエリアで Salesforce オブジェクト名とマッピングする Salesforce 列名、SharePoint フィールド名、そしてマッピングする SharePoint フィールド タイプを指定することで、Salesforce オブジェクトを SharePoint 列へマッピングすることが出来ます。既定では、リスト マッピングと列マッピングオプションは有効になっています。

3. プラス アイコンとマイナス アイコンをクリックして、マッピングを追加及び削除することが出来ます。
4. [適用] をクリックしてマッピングを保存します。

マッピングの構成が完了したら、[マッピングの保存] ボタンをクリックしてマッピングを xml ファイルとして保存します。これにより、後に [既存マッピングの読み込み] からマッピングを読み込むことが可能になります。

コンテンツ インテグレーターを使用した SharePoint から Salesforce へのコンテンツ レプリケーション


このセクションでは、Atlas レプリケーター for Salesforce を使用した Salesforce から SharePoint 環境へのデータ レプリケーションの手順を説明します。Salesforce ヘデータをレプリケートするには、次の手順に従って予めコンテンツ インテグレーター マッピング プランを作成しておく必要があります。

ロード バランスを実行している Web フロントエンド サーバーが複数使用されている SharePoint での使用上の注意事項: Atlas は 1 つの Web フロントエンド サーバーへのみインストールします。

コンテンツ インテグレーター プランの作成

コンテンツの選択

コンテンツ インテグレーターでは、コンテンツ マッピング プランを使用してレプリケーション対象とするコンテンツを指定します。

1. [マッピング テーブル:] の隣の [追加] ボタンをクリックします。すべての SharePoint ファームおよび Salesforce ワークスペースを一覧表示したウィンドウがポップアップ表示されます。
2. 画面左側の列のファーム名をクリックして SharePoint オブジェクトを表示します。SharePoint から Salesforce ヘマッピングするドキュメント ライブラリを選択します。
3. 画面右側の Salesforce インスタンスをクリックしてツリーを展開し、コンテンツの保存先となるワークスペースを選択します。
4. 大規模な SharePoint 環境や Salesforce コンテンツが対象となる場合には、検索機能を使用して対象を絞ることが出来ます。対象となる SharePoint サイト コレクション/サイト URL または Salesforce ワークスペースを該当のフィールドに入力して  アイコンをクリックして検索を実行します。
5. [OK] をクリックしてマッピング構成を保存します。

追加のマッピング設定

コンテンツ インテグレーター マッピング プランには追加で4つのオプションを設定出来ます。

- **フォルダ パスの設定:** フォルダの SharePoint パスを Salesforce ヘレプリケートするか否かを設定します。フォルダ パスの最初の 100 文字をタグとしてレプリケート先にレプリケートするか、またはフォルダ パスをレプリケート先ファイルの属性として設定するかを指定出来ます。

- **すべてのサブフォルダを含む:** 選択済みマッピングのサブフォルダに含まれるすべてのサブ フォルダ及びファイルをレプリケートします。
- **リアルタイム レプリケートを有効にする:** レプリケート元とレプリケート先を同期します。
- **フィルタ プロファイル:** ドロップダウン ボックスから予め設定しておいたフィルタ プロファイルを選択します。設定方法の詳細については、“詳細設定” セクションの “フィルタ” セクションを参照してください。

[OK] ボタンをクリックして、設定を保存します。

マッピングの編集

マッピングの作成が完了すると、マッピング オプションの編集、削除、有効・無効の切り替えを実行する事が出来ます。

マッピング プランの実行

マッピング スケジュールなどの詳細設定を実行するには、次の手順に従ってください。すぐにレプリケーションを実行するには、画面下部の [すぐに実行] をクリックします。

詳細設定

コンテンツ インテグレーター マッピング プランの詳細設定を構成するには、対象のマッピングを選択してから [詳細設定] ボタンをクリックします。

スケジュール

既定では、SharePoint から Salesforce へのコンテンツ レプリケーションのスケジュールは無効になっています。レプリケーションをスケジュールする、もしくは実行の間隔を設定するには以下の手順に従ってください。

1. スケジュール タブに進みます。
2. すべてのコンテンツ（完全）、レプリケーション タイプを問わず前回のレプリケーション ジョブ以降に追加された変更のみ（増分）の中から、該当するタブをクリックしてスケジュールするレプリケーション タイプを選択します。
増分レプリケーション ジョブを選択する場合、追加で 2 つのオプションがあります。
 - **更新のレプリケート:** 前回のレプリケーション ジョブ以降、レプリケート元で追加された変更がレプリケート先を上書きします。
 - **削除のレプリケート:** 既にレプリケート済みのファイルで、ジョブ完了移行に削除されたファイルがレプリケート先で削除されます。
3. [無効] チェックボックスをオフにしてスケジュール オプションを有効にします。

4. カレンダー アイコンを使用して、レプリケーション マッピングの開始時刻を指定します。
5. [1 つを選択] ドロップダウンから時間、日間、週間、月指定、を選択してジョブ実行の間隔を設定することも出来ます。
6. [適用] をクリックして設定を保存します。

*注意: レプリケーション ジョブ間に設定する間隔は、Web アプリケーション側で構成している変更ログより長い期間には設定することが出来ません。

フィルタ

SharePoint のフィルタ オプションと同様、選択したフォルダ内でレプリケートするファイルを絞る為には、レプリケート対象から外すファイルのタイプをフィルタ ポリシーとして設定することが出来ます。

1. [フィルタ] タブを選択します。表示されるフィールドにフィルタ名を入力し、フィルタの適用バージョン レベル及び適用するファイルの状態を指定します。
2. フィルタの条件を選択してから、オペレータードロップダウン ボックスから該当の項目を選択します。次に、フィルタ対象となる条件の値を入力します。
3. [追加] アイコンをクリックして新規の行を追加します。新規条件については、AND OR 論理で設定することが出来ます。
4. [保存] をクリックしてフィルタ ポリシーを保存します。追加で新規フィルタ ポリシーを作成するには、[新規] ボタンをクリックしてから情報を入力します。レプリケーション ジョブに適用したいフィルタ プロファイルを画面右側から選択して、[適用] ボタンをクリックします。

競合オプション

レプリケーションを設定するには、SharePoint と Salesforce 間での競合発生時の優先順位と詳細を設定します。

1. [優先度] ドロップダウン ボックスの数字を変更して競合解決ルールの優先順位を設定します。
2. 優先順位の設定が完了したら、該当のラジオボタンを選択して競合発生時のアクションを選択します。[スキップ] または [上書き] の 2 つのオプションがあります。
 - **スキップ:** レプリケート元とレプリケート先で同じ名前のファイルが存在する場合には、そのファイルはレプリケートされません。
 - **上書き:** レプリケート元とレプリケート先で同じ名前のファイルが存在する場合には、そのファイルは先に設定した競合解決ルールに基づいて上書きされます。

3. [適用] をクリックして設定を保存します。

ユーザー マッピング

Atlas をご使用頂くと、SharePoint ユーザーから Salesforce ユーザーへのカスタム レプリケーション マッピングを手動で作成することが出来ます。ユーザー マッピングを構成しない場合、Salesforce ユーザーは SharePoint ユーザーへと自動的に照合されますが、照合の結果 Salesforce ユーザーに一致しなかった SharePoint ユーザーはシステム アカウントへとマッピングされます。ユーザー マッピングを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. [追加] をクリックします。次に、レプリケートする SharePoint ユーザー名とレプリケート先の Salesforce ユーザー名を入力します。
2. プラス アイコンとマイナス アイコンをクリックして、マッピングを追加及び削除することが出来ます。
3. [適用] をクリックしてマッピングを保存します。

マッピングの構成が完了したら、[マッピングの保存] ボタンをクリックしてマッピングを xml ファイルとして保存します。これにより、後に [既存マッピングの読み込み] からマッピングを読み込むことが可能になります。XML ファイルからの読み込みが最速のマッピング読み込み方法である為、大量のユーザーが存在する場合には、予め XML ファイルに保存しておくことを推奨します。

コンテンツ タイプ マッピング

Atlas をご使用頂くことで、Salesforce オブジェクトから SharePoint コンテンツ タイプへ手動でマッピングを設定することが出来ます。

1. [コンテンツ タイプ マッピング] タブへ移動します。
2. [コンテンツ タイプ マッピング] チェックボックスをオンにして、レプリケートする SharePoint コンテンツ タイプ名と、レプリケート先の Salesforce コンテンツ タイプ名を入力します。
3. また列マッピング エリアで、マッピングする SharePoint フィールド名及びマッピング先の Salesforce 列名を指定して SharePoint フィールドから Salesforce 列へマッピングすることが出来ます。既定では、コンテンツ タイプ マッピングと列マッピングオプションは有効になっています。
4. プラス アイコンとマイナス アイコンをクリックして、マッピングを追加及び削除することが出来ます。
5. [適用] をクリックしてマッピングを保存します。

マッピングの構成が完了したら、[マッピングの保存] ボタンをクリックしてマッピングを xml ファイルとして保存します。これにより、後に [既存マッピングの読み込み] からマッピングを読み込むことが可能になります。

インストールと設定の完了

Atlas のインストール及び構成が完了しました。これで、Salesforce 及び SharePoint 間のデータを自由自在に操作することが出来るようになりました。その他のインフラ管理などに関する詳細については、www.avepoint.co.jp/products にアクセスするか、弊社営業担当までお問い合わせください。

著作権

© 2010 AvePoint Japan K.K. All Rights Reserved.著作権は、AvePoint Japan 株式会社に帰属します。本書に掲載されている情報の無断複製・転載を禁じます。本書のいかなる部分も、いかなる書式および電子通信、機械的送信、複写、記録などのいかなる方法、あるいはAvePoint Japan 株式会社（〒108-0075 東京都港区港南2丁目4-15品川サンケイビル2階）による事前の文書による許諾なしに複製、保存、送信することを禁じます。

登録商標

AvePoint DocAve[®]、AvePoint 、AvePoint, Inc.はAvePoint, Inc.の商標です。

Microsoft、MS-DOS、Internet Explorer、Microsoft Office SharePoint Servers 2007、SharePoint Portal Server 2003、Windows SharePoint Services、Windows SQL server、およびWindowsはマイクロソフト株式会社の商標または登録商標です。

Adobe Acrobat、およびAcrobat ReaderはAdobe Systems, Incの商標です。

その他記載の商標および登録商標は、それぞれの会社の所有物です。

変更

本書の情報は情報提供のみを目的とし、通知なしに変更または更新される場合があります。当社では最新、そして正確な情報を提供できるよう努力しておりますが、あらゆるコンテンツの誤りもしくは脱落に起因する間接的、派生的に生じた損害に対し、一切の責任を負わないものとします。当社は、ユーザーに対し予告、通知をすることなく記載内容を変更する権利を所有しています。

AvePoint Japan 株式会社
〒108-0075
東京都港区港南2丁目4-15
品川サンケイビル2階

201085.174651